

# 小児がん中央機関からの報告

国立成育医療研究センター 小児がんセンター  
松本公一

2017.3.10  
小児がん拠点病院連絡協議会

1

## がん対策基本法改正

平成28年12月16日 公布

(がん患者における学習と治療との両立)

第二十一条 国及び地方公共団体は、小児がんの患者その他のがん患者が必要な教育と適切な治療とのいずれをも継続的かつ円滑に受けられることができるよう、必要な環境の整備その他の必要な施策を講ずるものとする。

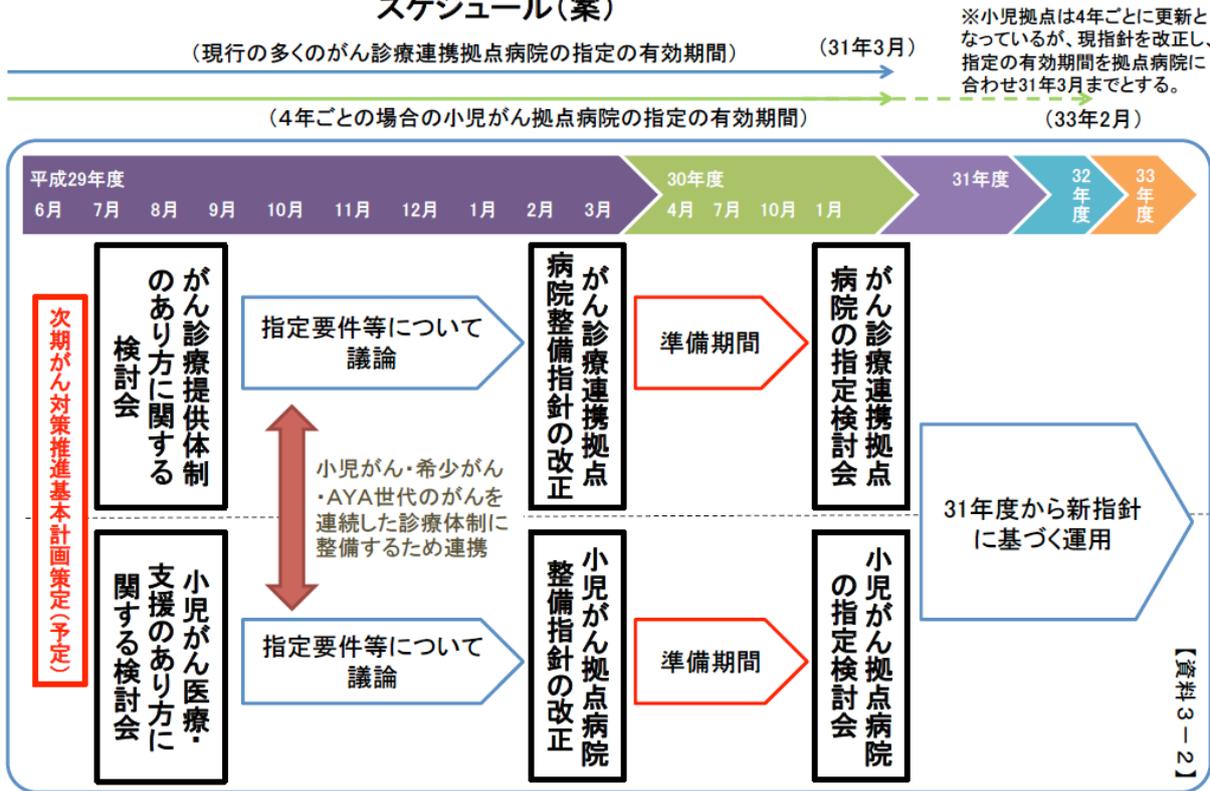
第十八条第一項中「事項」の下に「並びにがんの治療に伴う副作用、合併症及び後遺症の予防及び軽減に関する方法の開発その他のがん患者の療養生活の質の維持向上に資する事項」を加え、同条第二項中「標準的な」を「有効な」に、「臨床研究」を「臨床研究等」に改め、同項を同条第三項とし、同条第一項の次に次の一項を加える。

2 前項の施策を講ずるに当たっては、罹患している者の少ないがん及び治癒が特に困難であるがんに係る研究の促進について必要な配慮がなされるものとする。

2

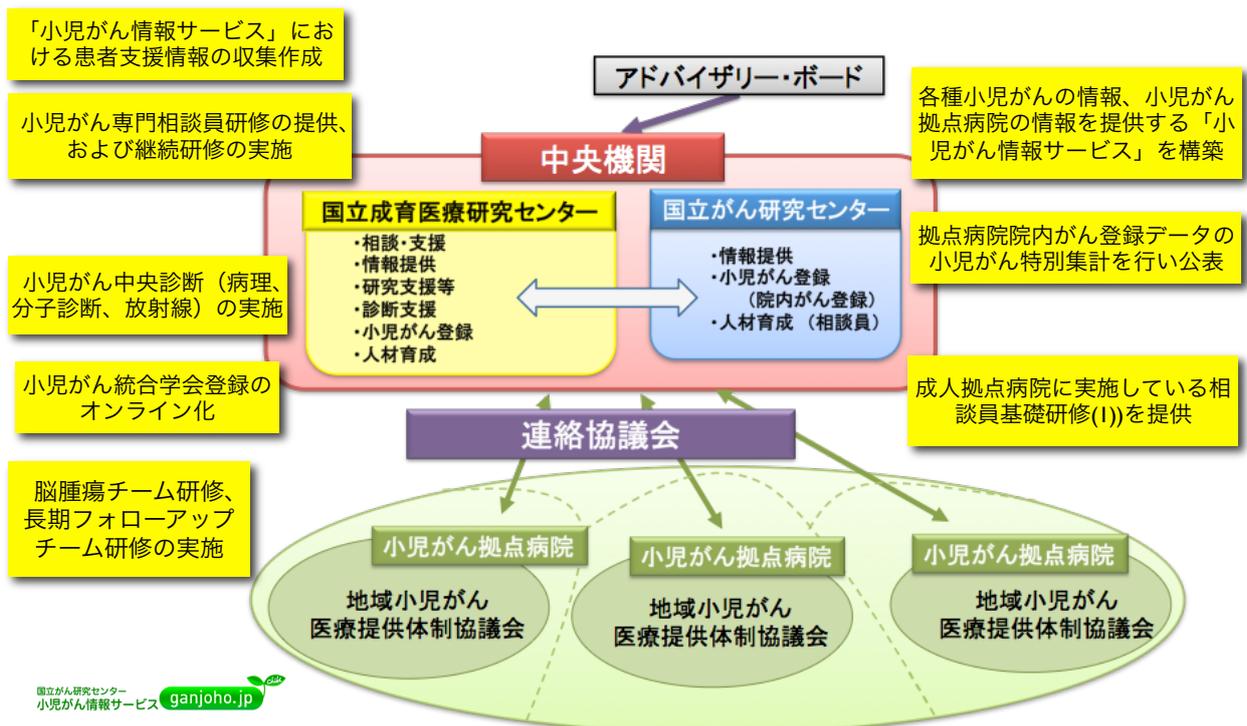
# がん診療連携拠点病院・小児がん拠点病院のあり方に関する検討のスケジュール(案)

【資料3-2】



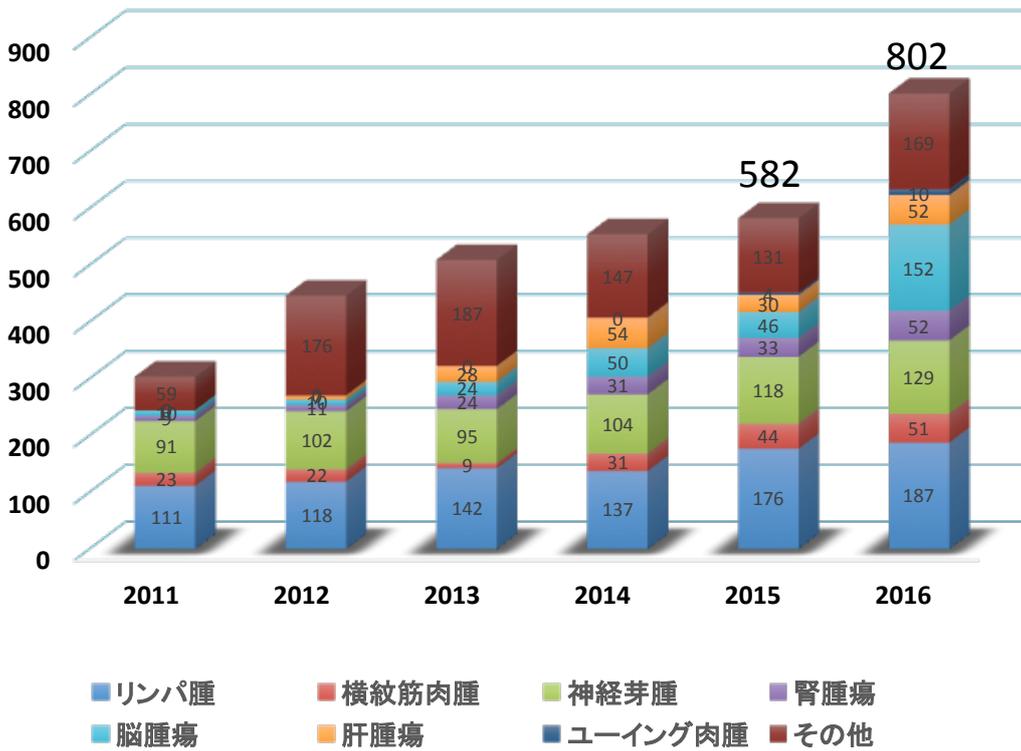
3

## 小児がん中央機関の業務



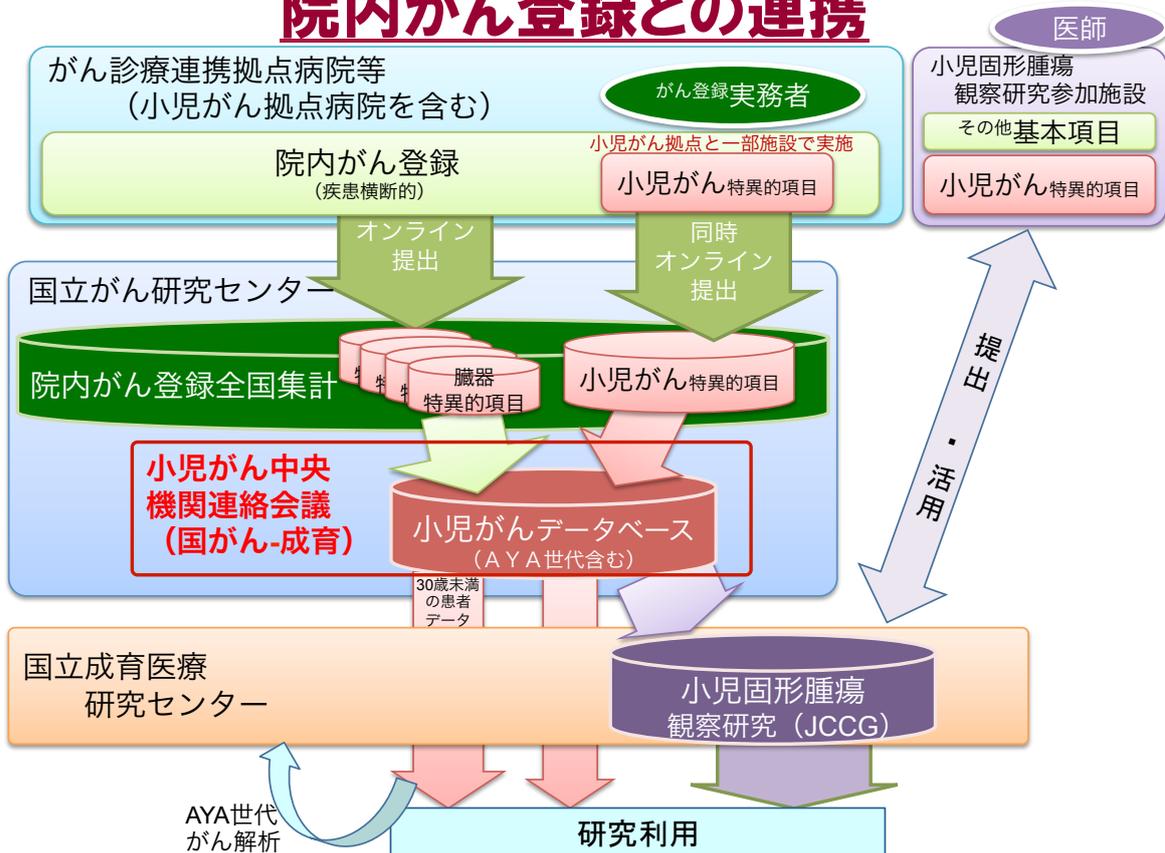
4

# 疾患グループ別 中央病理診断症例数



5

## 院内がん登録との連携

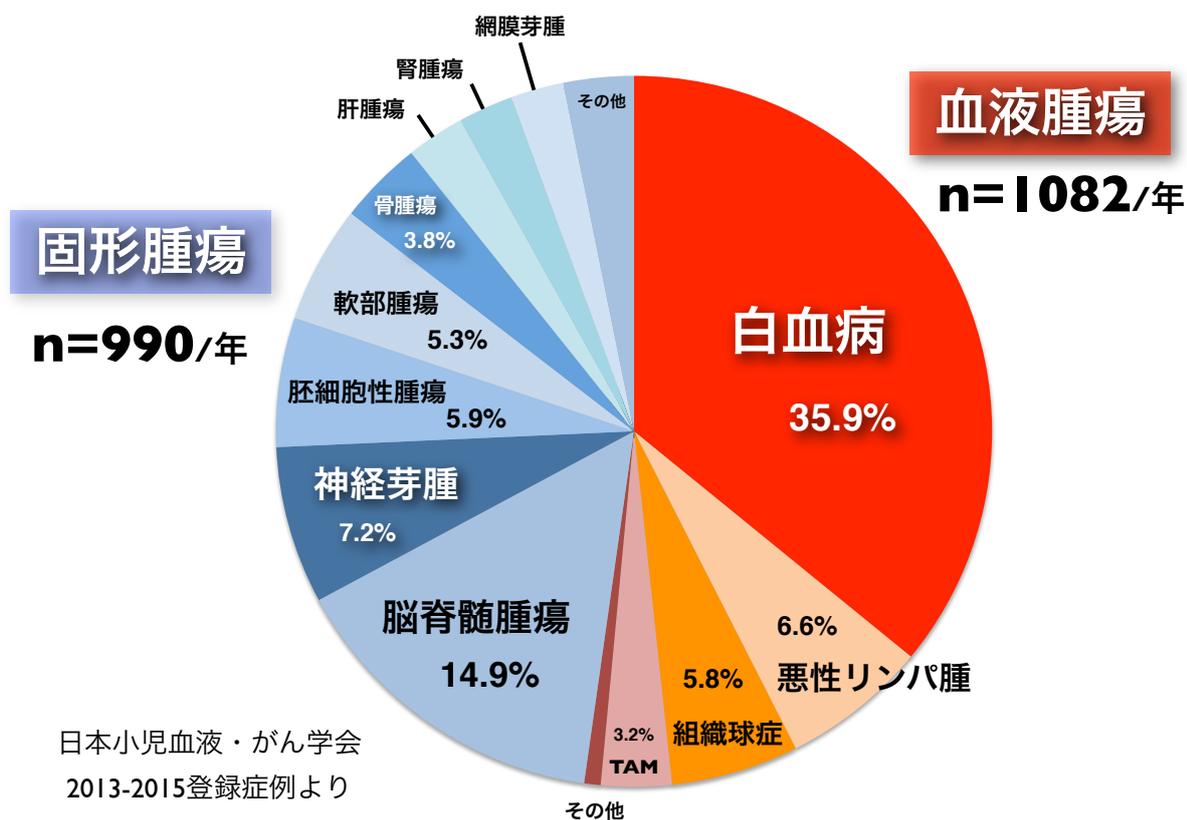


6

# 小児がん拠点病院ができてからの 診療動態

7

## 日本の小児がん (日本小児血液・がん学会 疾患登録 2016年集計)

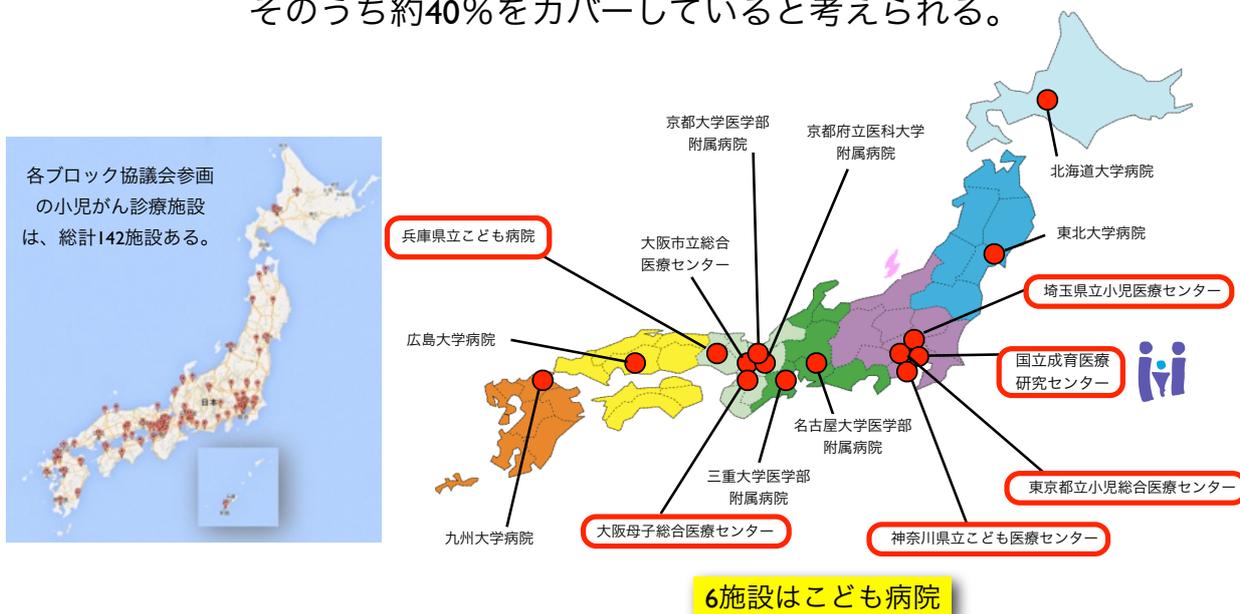


8

# 小児がん拠点病院

2013年2月に選定された。

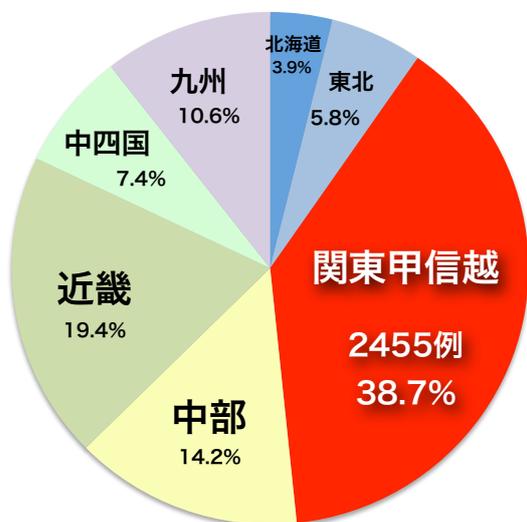
15歳未満の小児がん患者は年間2000～2500人の発症があり、  
そのうち約40%をカバーしていると考えられる。



## 学会登録数からみた関東甲信越地域の小児がん

日本小児血液・がん学会 疾患登録 2016年集計より

2013-2015 (n=6347)



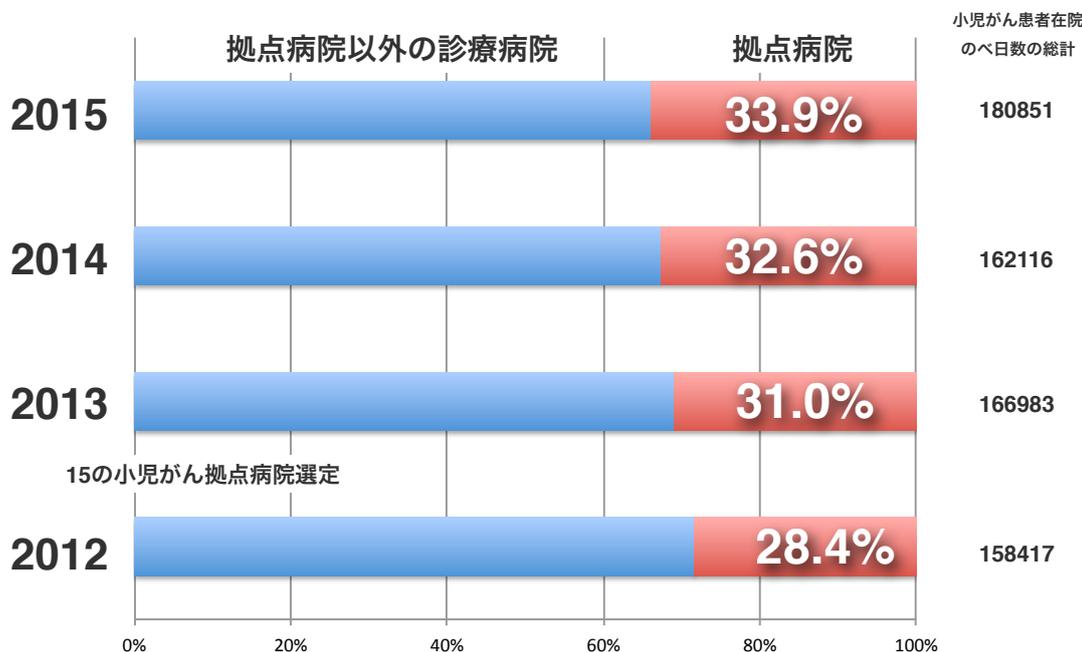
拠点病院  
カバー率  
1拠点病院  
あたりの  
診療数(3年)

北海道	33.6%	83
東北	26.4%	97
関東甲信越	30.2%	186
中部	20.6%	94
近畿	54.5%	134
中四国	20.0%	94
九州	25.0%	168

総計 32.2% 136

# 拠点病院への集約化はやや頭打ち(?)

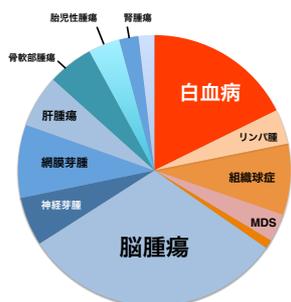
小児がん患者在院のべ日数の拠点病院比率



11



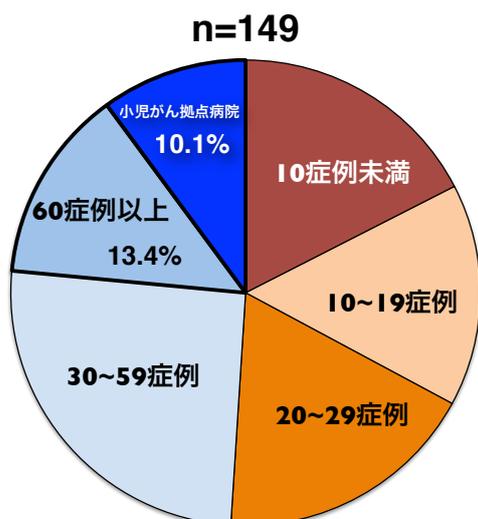
## 国立成育医療研究センター小児がんセンター 入院患者数は増加している



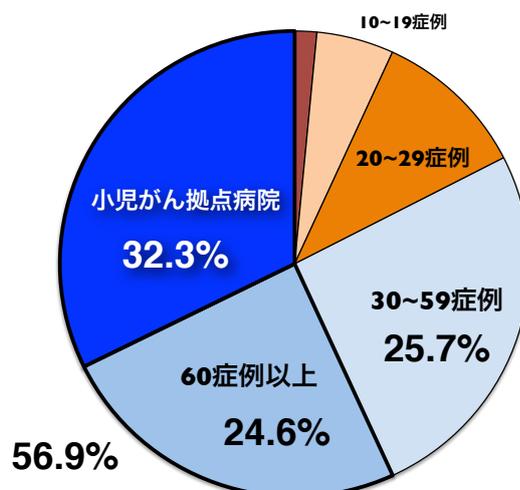
	2011	2012	2013	2014	2015
<b>血液腫瘍</b>	28	38	24	32	46
ALL	4	14	9	14	14
AML	4	5	4	5	8
CML	0	0	0	0	0
その他白血病	0	0	3	1	0
MDS/MPO	0	2	1	2	2
非ホジキンリンパ腫	6	6	0	2	5
ホジキンリンパ腫	0	0	0	0	1
リンパ増殖性疾患	0	0	0	0	3
組織球症/HLH	7	1	0	2	2
組織球症/LCH	3	7	5	3	7
組織球症/その他	2	2	0	0	0
その他血液疾患	0	0	2	0	0
ダウン症TAM	2	1	0	3	3
<b>固形腫瘍</b>	55	66	53	70	70
神経芽腫	2	7	7	5	7
網膜芽腫	17	10	7	0	8
腎腫瘍	0	3	1	4	3
肝腫瘍	3	5	7	6	9
骨腫瘍	3	0	1	5	0
軟部腫瘍	3	1	3	7	3
胚細胞性腫瘍	2	6	2	5	3
脳腫瘍	24	30	23	38	35
その他固形腫瘍	1	4	2	0	2

12

### 小児がん診療数別病院数

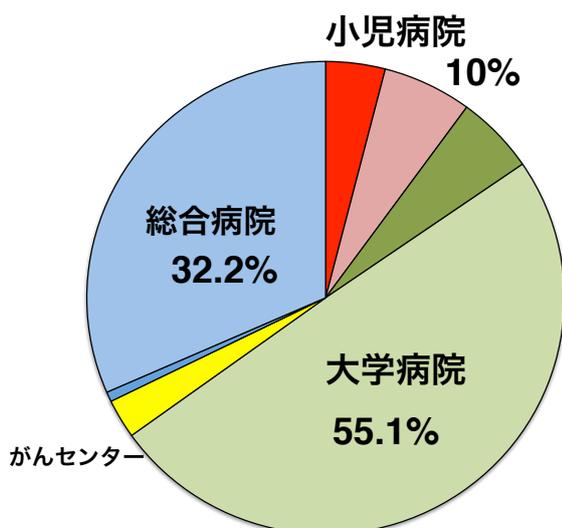


### 小児がん診療数（3年）

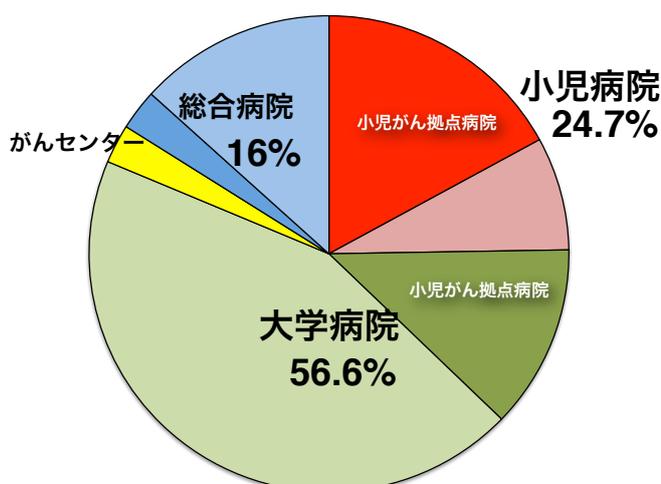


小児がん診療病院は全国に約150施設ある。半数が年間10症例以上の診療規模を持ち、およそ25%が年間20症例以上の診療数である。57%の患者さんがある程度の規模の病院で診療されていることが分かる。  
小児がん拠点病院の診療は15施設で32%を占めている。

### 小児がん診療病院数



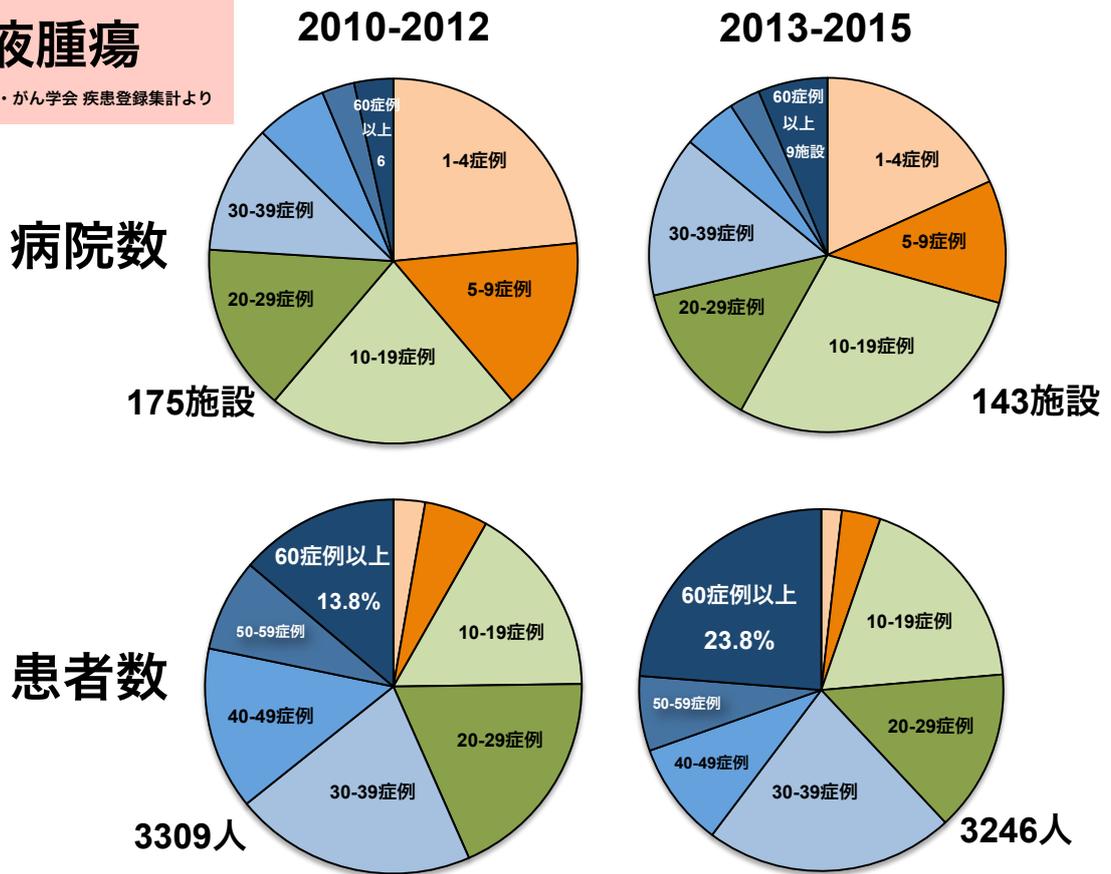
### 小児がん診療数（3年）



小児がん診療病院数を種類別に診た場合、55%が大学病院であり、10%が小児病院である。実際の小児がん患者診療数は、大学病院で57%、小児病院で25%、総合病院で16%となる。

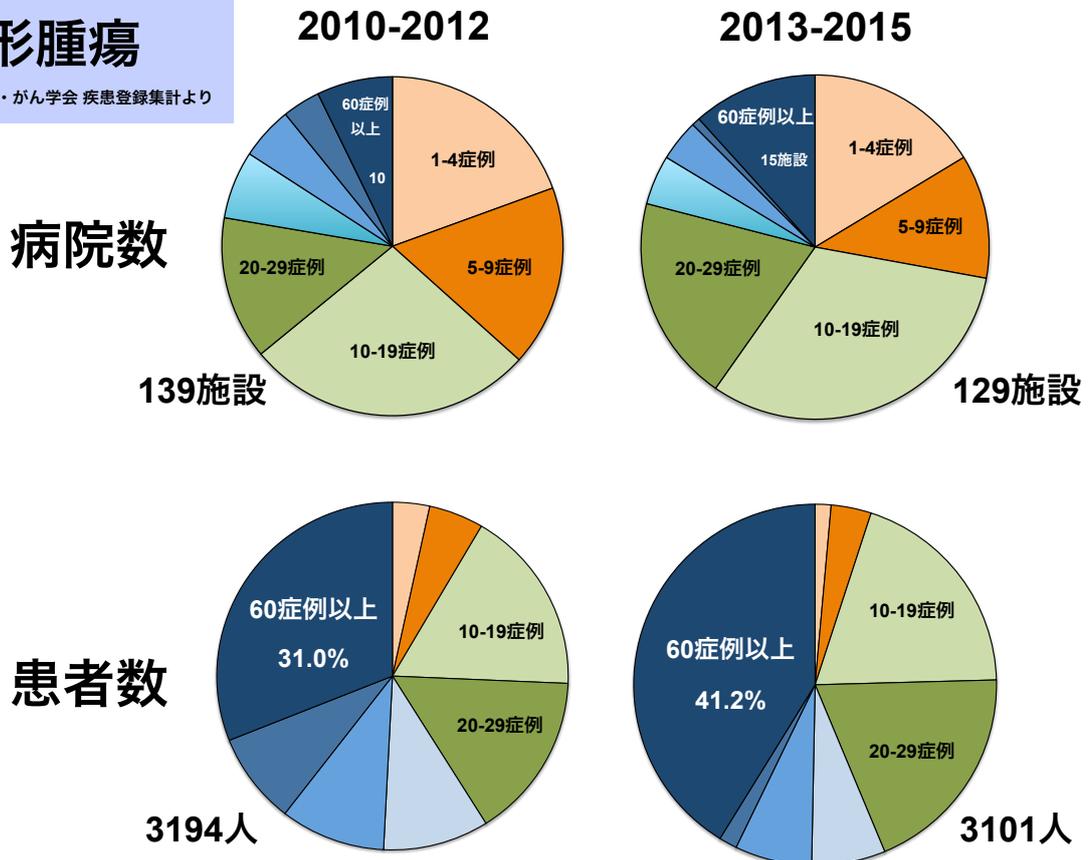
# 血液腫瘍

日本小児血液・がん学会 疾患登録集計より



# 固形腫瘍

日本小児血液・がん学会 疾患登録集計より



## 脳腫瘍・眼腫瘍・骨軟部腫瘍

17

### 現況報告と日本小児血液・がん学会登録との相違

	2017 現況報告(2015)				日本小児血液・がん学会登録(2013-15の平均)				違い(%)
	造血器腫瘍	固形腫瘍	脳腫瘍	総計	造血器腫瘍	固形腫瘍	脳腫瘍	総計	
北海道大学病院	15	25	16	56	14	10	4	28	202.4
東北大学病院	14	7	12	33	5	12	16	32	102.1
埼玉県立小児医療センター	53	23	7	83	51	18	13	82	100.8
成育医療研究センター	39	31	23	93	25	28	15	67	138.1
東京都立小児総合医療センター	37	22	17	76	27	17	14	57	132.6
神奈川県立こども医療センター	37	15	15	67	27	16	9	52	129.7
名古屋大学医学部附属病院	33	61	23	117	19	20	2	41	287.7
三重大学医学部附属病院	28	14	10	52	10	4	2	16	331.9
京都大学医学部附属病院	16	15	4	35	10	8	6	23	150.0
京都市立医科大学附属病院	8	23	9	40	10	17	3	30	131.9
大阪府立母子保健総合医療センター	43	23	2	68	21	15	6	42	160.6
大阪府立総合医療センター	26	18	13	57	26	17	15	58	98.3
兵庫県立こども病院	48	21	10	79	36	20	14	70	112.9
広島大学病院	24	18	17	59	15	15	2	31	188.3
九州大学病院	34	45	6	85	22	27	6	56	151.8

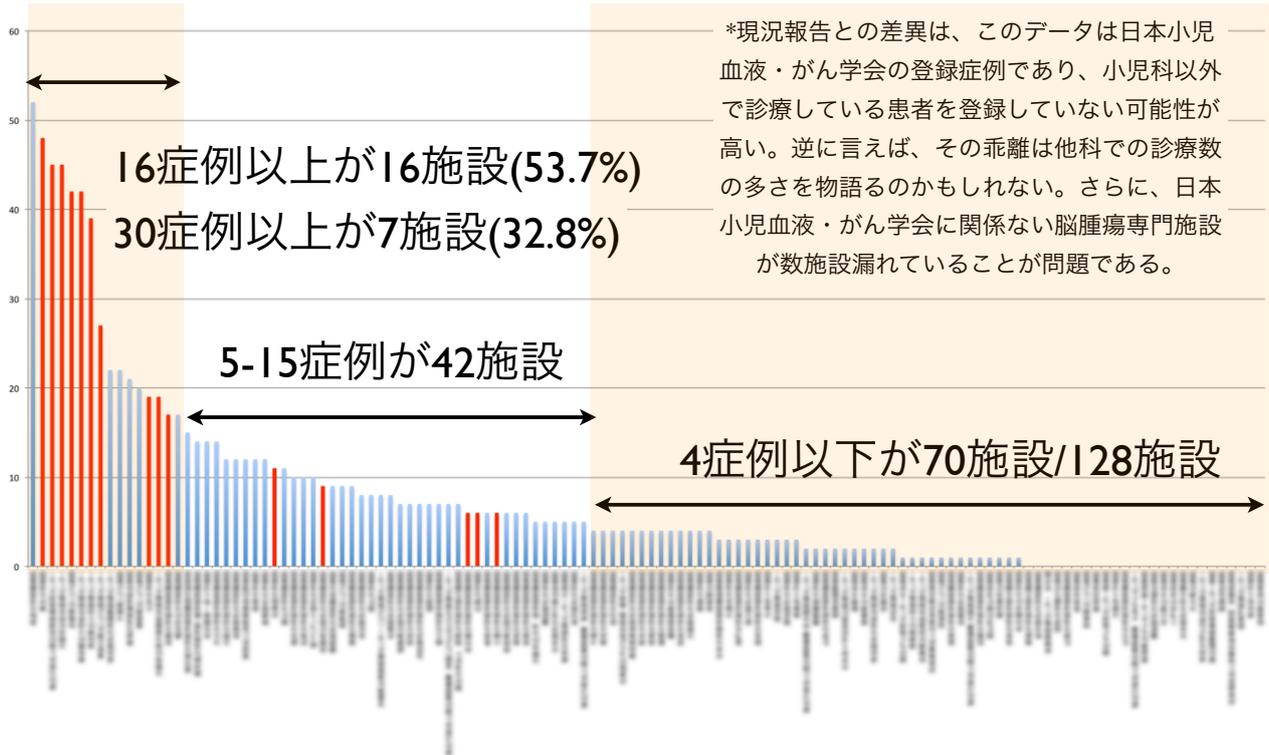
現況報告と学会登録の差は、以下の要因が考えられる

- 1) 15歳以上の他科で診療しているがん患者の頻度が高い
- 2) 現況報告に再発患者を入れている(再発患者は初診でも初発とならず学会登録できない)
- 3) 学会報告が不十分なものになっている

18

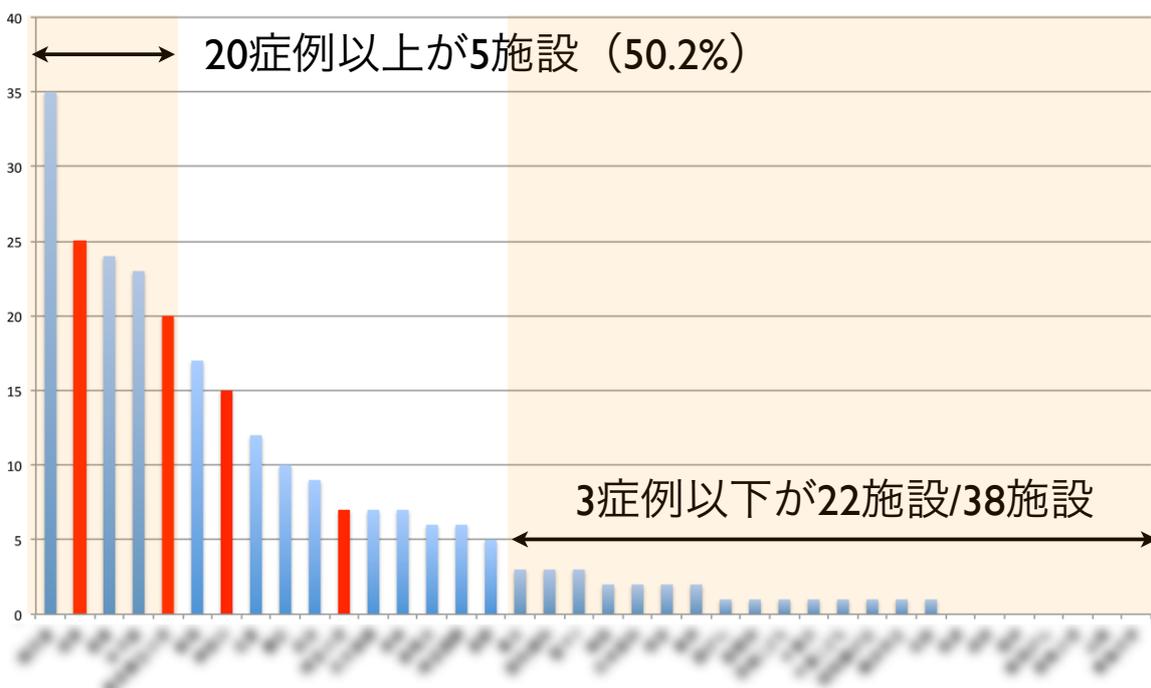
## 脳脊髄腫瘍の診療状況

\*注：症例数は2013-15年の総和

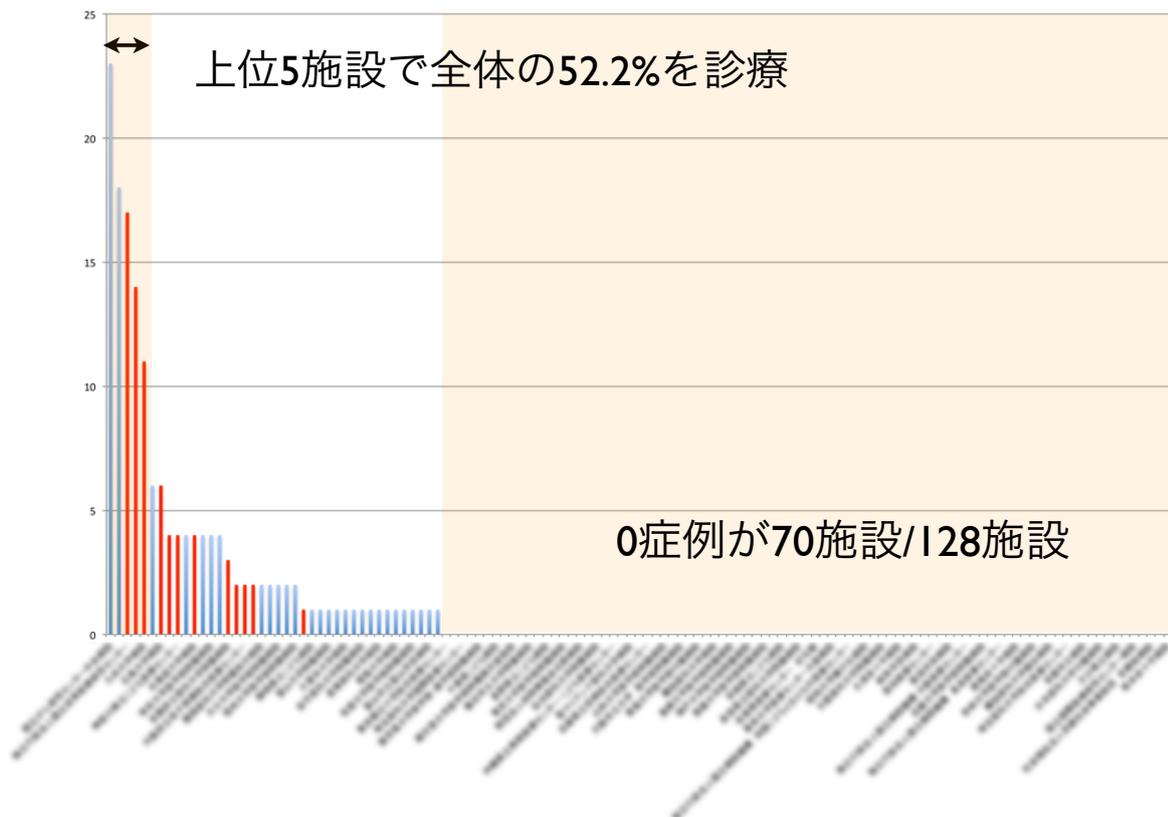


## 関東甲信越の脳脊髄腫瘍診療（2015）

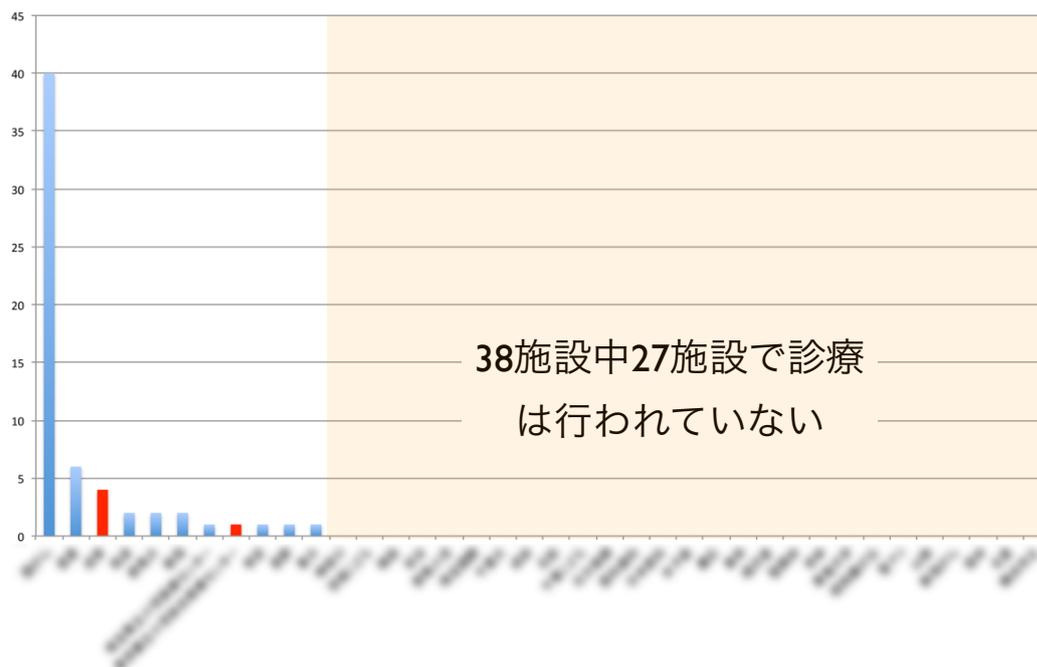
\*注：症例数は2015年の新患+再発



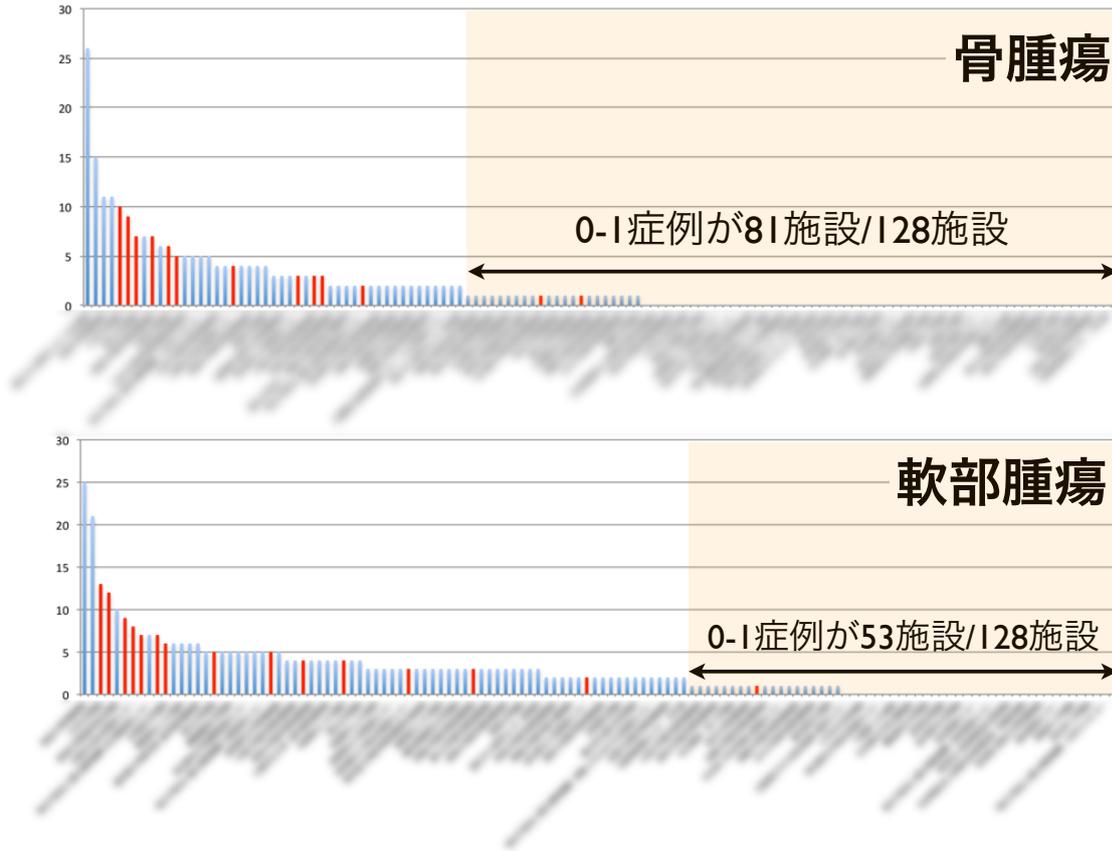
## 眼腫瘍の診療状況



## 関東甲信越の眼腫瘍診療（2015）

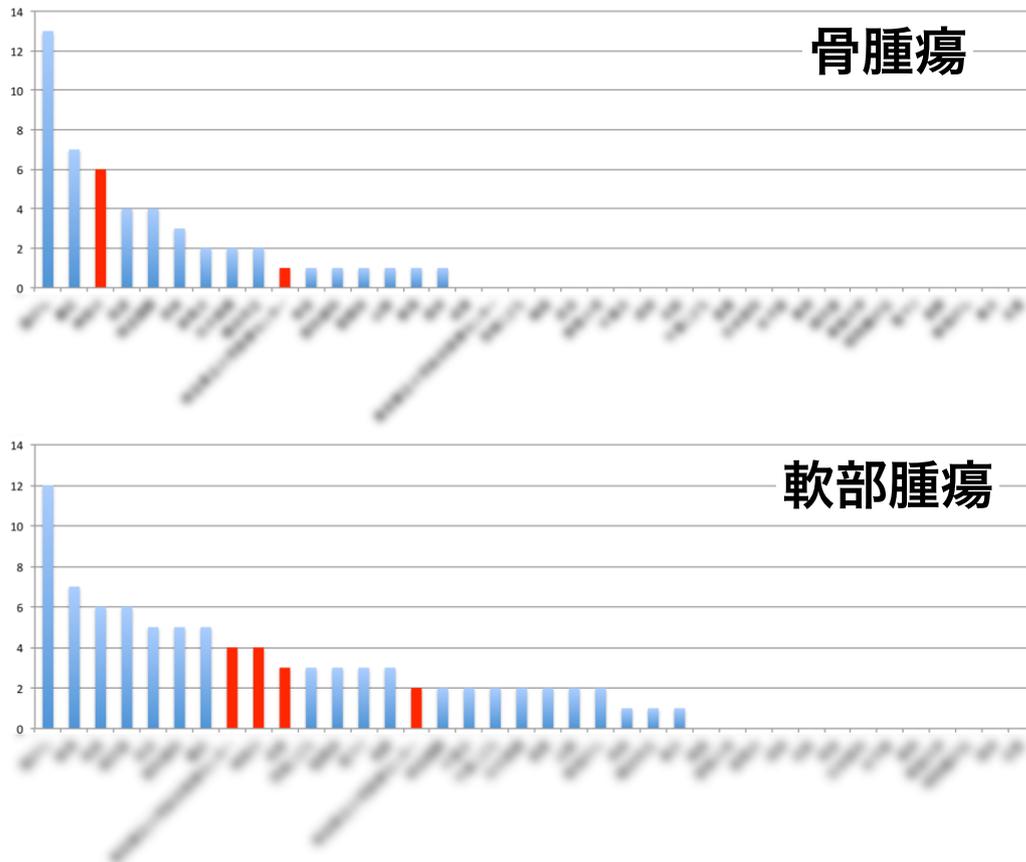


日本小児血液・がん学会 疾患登録 2013-15年集計より



23

関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会



24